

## ソーラーガシット工法（エアルフ・ドリーム 30） 施工マニュアル （ダイジェスト版）

### 適用範囲

- ・適用屋根下地

野地板種類	構造用合板・コンクリート型枠用合板・針葉樹合板 厚 12 mm以上
下葺材	ゴムアスファルト系ルーフィング もしくはアスファルトルーフィング 940 品 2 重張以上

- ・適用屋根勾配

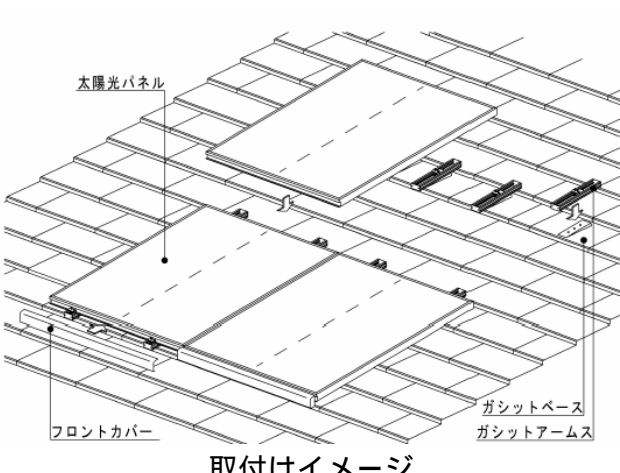
3.5 寸 ~ 10.0 寸勾配      6.0 寸勾配を超える場合は棧打ち工法となります。(補強板厚さも厚くなります。)

- ・適用建物高さ


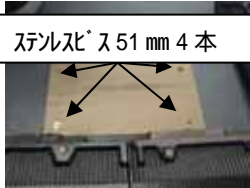
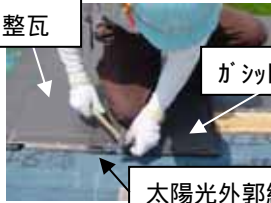



15m以下

ソーラーガシット工法(エアルフ・ドリーム 30)の概要

- ・ソーラーガシット工法(エアルフ・ドリーム 30)は、エアルフ・ドリーム 30 屋根に、太陽電池モジュールをガシットベースとガシットアームを用いて 4 点で支持する据置タイプの設置工法です。
- ・ガシットベースの取付け位置は、割付け図面に従いますが、縦方向は、カネカ太陽電池モジュールの固定ピッチ 1,227mm に対し、瓦の働き寸法は 250mm により、ガシットベースを瓦の 4 段又は 5 段置きに設置します。
- 横方向は、カネカ太陽電池モジュールの横寸法 1,008mm に対し、プレカット調整瓦寸法を 128mm としてガシットベース間に挿入し、440(ガシットベース)+128(プレカット調整瓦)+ 440(ガシットベース)=1,008mm を 1 セットとして、順次施工します。
- ・ガシットアームは、ガシットベースの突起部分に設置し、同梱の付属固定ビス 3 本にて補強板に取付けます。
- ・太陽電池モジュールの取付けは、押え金具をスライドしてボルトナットを締め付け固定します。

 <p style="text-align: center;">取付けイメージ</p>	<p style="text-align: center;">&lt; 標準作業手順 &gt;</p> <p style="text-align: center;">墨出し（割付け作業）[ A ]</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">瓦・補強板・ガシットベース・プレカット調整瓦・配線瓦の施工 [ B ]</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">ガシットアームの施工 [ C ]</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">屋根上ケーブルの配線 [ D ]</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">フロントカバー・太陽電池モジュールの施工 [ E ]</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">アース線・ケーブルの接続 [ F ]</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">施工後の点検 [ G ]</p>
--	---

## 施工方法

<p><b>墨出し[A]</b></p> <p>瓦の昇り寸法の横墨線(IAL-フ・ドリム 30 : 250mm)の墨打ちをして下さい。</p> <p>太陽電池モジュールの外郭線の墨出しをして下さい。</p> <p>ガシットベースの設置ライン(段)を目印して下さい。</p>	
<p><b>補強板の施工[B]</b></p> <p>ガシットベースを施工する位置に補強板(t21×w110×200mm)を、下方の瓦尻にひっつけて、ステンレスビス 51mm4 本以上で、野地板に取付けて下さい。</p>	 <p>ステンレスビス 51mm 4 本</p>
<p><b>ガシットベースの施工[B]</b></p> <p>太陽電池モジュールの外郭線に合わせて、ガシットベースを施工します。ガシットベースは瓦同様に釘にて対角2点止めで施工して下さい。</p>	 <p>調整瓦</p> <p>ガシットベース</p> <p>太陽光外郭線</p>
<p><b>プレカット調整瓦の施工[B]</b></p> <p>ガシットベースとガシットベースとの間に、幅 128mm のプレカット調整瓦を施工して下さい。プレカット調整瓦の固定は、対角2点止めとして下さい。</p> <p><math>440(\text{ガシットベース}) + 128(\text{プレカット調整瓦}) + 440(\text{ガシットベース}) = 1,008\text{mm}</math> を1セットとして、順次施工します。</p>	 <p>プレカット調整瓦</p>
<p><b>ガシットアームの施工[C]</b></p> <p>ガシットアームは、ガシットベースの突起部分に設置し、同梱の付属固定ビス 3 本にて補強板に取付けます。</p> <p>ガシットアームの固定ビスの締め付けは、片締めや急激な締め付けはせずに、断続的に、EPDM ゴムパッキンが半分程度潰れる状態に抑えて下さい。</p>	 <p>専用固定ビス 3 本で固定</p>
<p><b>屋根上ケーブルの配線[D]</b></p> <p>図面に従い、屋根上のケーブル配線を行って下さい。</p> <p>ケーブル線がたるまない様に、ガシットアームの両サイドに開いている穴を利用し、インシュロックを用いて結束して下さい。</p>	

軒先ガシットアームの押え金具ボルトのスライド・位置決め [ E ]

軒先のガシットアームの押え金具ボルトを所定の位置にスライドし、仮止めボルトを用い固定して下さい。

締め付けはM6用ソケット(10)を使用して下さい。

フロントカバー(オプション)を設置する場合はガシットアーム先端から40mmの位置に押え金具ボルトが来るようにして下さい。



太陽電池モジュールの施工 [ E ]

太陽電池モジュールは1段目(軒先側)の端から順に取付けて下さい。

太陽電池モジュールの下枠を1段目のガシットアームの上面をすべらせて、押え金具に合わせて所定の位置に設置し、上枠を2段目のガシットアーム上面に載せ4点で支えます。

2段目のガシットアームの押え金具ボルトをスライドさせ、太陽電池モジュール枠に当たる位置にセットし、仮止めボルトを用い固定します。

2段目の太陽電池モジュール設置ごとに、ガシットアームの押え金具のボルトナットを締め付けて下さい。



フロントカバーの施工(オプション) [ E ]

フロントカバーを設置する場合は、1段目の太陽電池モジュール設置と同時に取付けて下さい。

目違い防止のため付属アルミ板を付属ドリルスで固定して下さい。



アース線の施工 [ F ]

太陽電池モジュールの各縦目地部両サイドのガシットアーム同士をアース線でつなぐため、金具に設けられている穴を利用し、タッピングビスにて取付け接続して下さい。

設置用アースを取付け、太陽電池モジュールと接続して下さい。



施工後の点検 [ G ]

太陽電池モジュールや瓦の割れ等が無いか確認して下さい。

ガシットアームの押え金具の閉め忘れが無いかを再確認して下さい。

屋内にて直流電圧測定器を使用し検電を行って下さい。

屋根面の清掃を行って下さい。



## 部材一覧

部材名	仕様	寸法・数量	形状
ガシットベース (ソーラーパネル固定瓦)	繊維混入プレスセメント瓦 表面：塗装（瓦と同仕様） 重量：約 3.9 kg/枚	横 484 × 縦 320mm (働き：横 440 × 縦 250mm) 見掛け厚さ：30mm	
プレカット調整瓦	繊維混入プレスセメント瓦 表面：塗装（瓦と同仕様） 重量：約 1.3 kg/枚	横 172 × 縦 320mm (働き：横 128 × 縦 250mm) 見掛け厚さ：30mm	
ガシットアーム (ソーラーパネル固定金具)	本体：アルミニウム製（ブラック） 金具：SUS304 及びアルミニウム 裏面 EPDM シーラー 5mm 付 重量：0.36 kg	本体：H25 × w50 × L340mm	
ガシットアーム固定ビス	スライディング付防水ビス (SUS410SG 処理品) 〔ガシットアームに同梱〕	4.6 × 70mm (3 本止め)	
補強板	木材（構造用合板）	t21 × w110 × L200 (600) mm	
フロントカバー (オプション材料)	アルミニウム製（ブラック） 目違い防止プレート 2 × 25 × 50mm 付	H62 × w48mm (カネカ用 L1,008mm)	
アース線 (屋内引き込み用) (架台接続用・現地調達品)	IV 電線 5.5 圧着端子	20m 460 mm	
ケーブル類	+ 側ケーブル（黒） - 側ケーブル（白）	20m 35m	

## 主な施工工具・器具

荷揚げ機	水系	スケール（メジャー）
梯子	墨つぼ	ディスクグラインダー
ドリル	インパクトドリル	+2 ビット
ホルソー（ 30 ）	直流電圧測定器（テスター） 1	M6 ボルトナット固定用ソケット（10）

1 交流電圧及び直流電圧 350V が測定可能なもの。耐電圧 450V 以上を推奨